

今後の展開について

～期待と課題～

昨年末、次期ごみ処理施設の建設地が高根沢町に決定しました。3つの候補町からの絞り込みを終えたわけですが、同時にこれが「新しいスタート」です。新たなスタート点に立ち、また、高根沢町内における建設候補地の検討に当たり、以下の期待と課題があります。



▲宇都宮大学 陣内雄次助教授

- ①「高根沢町だけの取り組み」とすることなく、塩谷広域圏1市4町という広域的観点から、循環型社会を形成することを究極の目標とすることが望まれます。そのような将来像を基本とする次期ごみ処理施設のあり方を検討することで、塩谷広域圏における環境に関する取り組みがさらに進展することが期待されます。
- ②このため、市民や市民グループ、行政関係者、大学関係者などをメンバーとする検討会を設置し、中立公平な立場から徹底した議論と情報公開を行うことが必要です。これまでのような中途半端な議論と情報公開を避けることにより、塩谷広域圏の市民一人ひとりがごみ処理を自らの問題として認識し、建設的な検討プロセスが確立されることが期待されます。



▲宇都宮大学 中村祐司助教授

「ごみ処理施設」と聞くと、そのイメージはまだまだ決して良いものではありません。周辺の空気や土壌が汚れる、ごみの臭いに悩まされる、ごみ搬入車が頻繁に行き来するのは嫌だ…。このように「迷惑施設」としての負のイメージがどうしても付きまといます。しかし、本当に「迷惑な」だけの存在なののでしょうか。地域コミュニティに生きる私たちにとって有効で活用できる場に私たち自身で転換

させることはできないのでしょうか。

なぜ施設を設置しなければいけないのか、果たして環境との調和をはかることは可能なのか、将来、地域社会を担っていく子供たちに何を教えていけばよいのか…。

交流や学習を通じて施設やその周辺の場を活用することで私たちは生活の質を高めていくことができるのではないのでしょうか。こうした課題をぜひ私たちと一緒に考え、そして実行していきませんか。今こそ皆さんからの知恵をいただきたいのです。